

## 平成 30 年 7 月豪雨を踏まえた高梁川本川沿川 4 市長との意見交換会 議事概要

日時：令和 3 年 5 月 17 日（月）14：00～15：00

場所：テレビ会議による開催

### 【市長から出された主なご意見】

- 災害復旧を含め、河川浚渫やダムの事前放流等に関して継続して取り組んでいただき感謝している。引き続き高梁川本川、支川ともに護岸改修、堤防嵩上げ等をお願いしたい。
- 昨日、市内で降雨量 100mm を超える雨が降り本格的に梅雨期に入ったと感じている。
- 市内の河川監視カメラに関して、昨年度 4 台を更新、新規で 4 台設置している。河川映像については、地元ケーブルテレビを通して配信し、市HPでも静止画を公開している。この河川映像を国の情報サイトに掲載して欲しい。
- 上流域のリアルタイム情報を下流域の住民にも提供し、流域全体の状況を共有することで確実な避難行動に結びつけることができると考えている。
- 的確なダムの事前放流の実施、実施基準の見直しやダムの改修の検討を引き続きお願いしたい。
- 高梁川本川沿川における取組促進につながるよう、情報共有と連携を実施したい。
- 3 年続けて災害が続いているという状況で、緊張感を持って対応していかなければならないと感じている。
- ダムの事前放流について、各ダムで性格、構造等は違うが、できる範囲で実効性を高めた施策を引き続きお願いしたい。
- 3 年緊急対策における河道掘削、樹木伐採等の実施について感謝している。また、引き続き、5 年加速化対策や河川整備計画に基づいた河川改修をお願いしたい。
- 平成 30 年 7 月豪雨に対し復興期に入っている。国、県、市それぞれの取組を着実に進捗、実施できるように支援をお願いしたい。
- 高梁川中上流ブロック河川整備計画を早く策定し、実行に移してほしい。
- 市民や自主防災組織に対して、取組の実施状況などを伝えていきたいのでいろいろな情報の提供をお願いしたい。
- 中電 3 ダムに監視カメラを設置いただき、感謝している。このことにより、昨年度、高梁市で設置したものを含め 15 箇所の河川映像を提供できることになる。
- 中電ダム周辺情報も住民に提供するため、国のサイトへ情報を掲載してほしい。
- 河川監視カメラの映像は、ケーブルテレビで公開しているが、沿川の市と協議し情

報提供について考えたい。

- カメラ設置によりリアルタイムで河川の状況を確認できるようになったが、そのことに頼ることなく、住民自身がマイ・タイムラインの作成等を通じて避難について考え、行動してほしい。また、そのような行動に結びつけていきたい。
- 河道掘削、樹木伐採による対策効果（平成 30 年 7 月豪雨と同程度の洪水が発生した場合に約 50cm の水位低減が期待されること）について、提示いただき感謝している。
- この対策効果は、住民にとって安心感を得ることができると考えている。
- 直轄管理区間で水位低減効果があったように、県管理区間における対策も同様の効果があると考えている。
- 5 年加速化対策について、国、県、市で連携し取り組んでいきたい。
- 河川整備にあたっては、市が把握している地域ニーズもあるので、箇所付けも含め計画段階から沿川首長も一緒に議論ができる場を設けてほしい。
- 小田川合流点の付け替え、小田川及び高梁川の堤防強化や河道掘削、樹木伐採について計画的、早期着手に取り組んでいただき感謝している。
- 中電ダムのカメラ映像の公開について、尽力いただき感謝している。
- 洪水期に向けて、上流域から下流域まで全員で流域治水に取り組んでいかなければいけないと考えている。
- 本市では、家庭貯留の取り組みや用水路の低水管理および戸別止水板設置の補助制度を進めている。
- 新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、避難所に住民が集中しすぎないように注意しなければならないと考えている。
- そのために、住民が自宅の浸水リスクを認識し、適切な避難が実施できるよう、リスクに応じた避難行動を国、市、各機関がしっかり周知、PR していかなければならないと考えている。
- ダム事前放流について、積極的な運用によりサンプル数を蓄積し、降雨状況に応じて対応できるよう精度向上を図ってほしい。
- 平成 30 年 7 月豪雨災害から 3 年を前に非常に緊迫した思いを持っている。国、県、関係機関が様々な対策を着実に進めていただいている。そういう中でも非常に緊迫感を住民全体が持っている。

### 【河川管理者及びダム管理者からの主な発言】

- 5か年加速化対策に基づき、計画的に引き続き河道浚渫、樹木伐採等を実施していく。
- 河川監視カメラの映像を国の情報サイトに掲載することについて、事務レベルで調整中であり、検討していく。
- ダムの事前放流の基準見直しや精度向上については、ダム管理者と連携しながら引き続き検討していく。
- 自主防災組織との情報提供は、国と市で連携し取り組んでいきたい。
- ダムの事前放流の精度向上について、予測システムは全国の河川でも検討中であり、適正な運用について関係者と協議し、連携しながら取り組んでいきたい。
- 流域治水について、関係機関と協議し、連携しながら取り組んでいきたい。
- 河道内浚渫、掘削、樹木伐採等は、河道内整備実施計画に基づき実施しており、取組効果等も含め、今後、フォローアップを行っていきたい。
- ダム事前放流は、データを蓄積しながら、基準の見直し等を進めていきたい。
- 高梁川上流ダム群の改良は、事務レベルで調査研究中であり必要であれば検討したい。
- 利水者として、流域のための治水に協力、連携していきたい。
- 事前放流に関して、実施後には事後検証しているため、今後もデータ蓄積しながら精度向上を検討していきたい。
- ダム管理者として、ダムだけで実施できることには限界があり、流域全体みんなで力を合わせ災害に立ち向かっていくことが必要になると考えている。また、その中で責任をしっかりと果たしていきたい。